

深の歴史余話(十八)

高崎 壽郎

学校の移り変わり(2)

明治四十二年(一九〇九)現在地に校舎を新築した。四番目の学校で、児童数一五〇人の三学級。教員は校長と訓導二人で、校長は学級担任兼務だった。一・二年、三・四年、五・六年の複式。教科は、修身、国語、算術、日本歴史、地理、理科図画、工作、体操、唱歌だった。大正十一年(一九二二)高等科二年が設置され、尋常小学校六年、尋常高等小学校二年の義務教育で、児童数一六九名、教員四名だった。このような状態は、以後昭和十二年(一九四九)まで続くのである。

昭和十六年(一九四一)三月、国民学校令が公布され、校名は深田村立深国民学校と改称された。初等科六年の義務と高等科二年。

同年十二月八日、太平洋戦争へ突入で、児童も国民の一人としてこれに協力する戦時体制になった。

年に二回の農繁期休みがあり、

小さな子どもも一家の大切な働き手だった。出征兵士の家へは学校から出向き、田植えや稲刈りを手伝った。

昭和十九年(一九四四)九月、大阪市海老江区東国民学校より六年生三七人が集団疎開で深の学校へ来た。

終戦前の半歳だったが、児童は都会では味わえないワイルドな生活を体験した。尚、昭和五十七年(一九八三)十月には、約四十年ぶりにその時の児童の何名かが、学校訪問している。そして、昭和二十年(一九四五)の終戦。

昭和二十二年(一九四七)学校教育法による新学制(六・三・三・制)で、校名も深田村立深小学校に改称。戦後の新しい教育が始まる。高等科は新制中学校へ。

昭和二十五年(一九五〇)初めて全校単式学級になり、専任校長が就任した。複式が始まって七・七・七、児童数一四二名、六学級、七名の教員数だった。

昭和二十五年(一九五〇)七月、分村合併問題が尾を引き、下組の児童は御調郡美ノ郷木頃小学校へ集団転校した。

昭和二十六年(一九五二)四月一日、三原市へ合併し、校名も三

原市立深小学校になり現在に至っている。前年木頃小学校へ転校していた児童は、この年十月復校した。中学生は三原二中へ。

昭和二十七年(一九五二)三原市立深幼稚園を開設。

昭和二十九年(一九五四)二月、木造二階建校舎新築。町内から沢山の庭木をもらい植えた。

昭和三十三年(一九五八)十二月、創立九十周年記念式典を行う。

昭和五三年(一九七八)屋内運動場を新築。

昭和五六年(一九八一)五月、現在の校舎を新築。

昭和五十七年(一九八二)プール新設。

三原市へ合併以来五十年が経過した。社会の変化とともに学校も変化して行く。

この間、変則複式を昭和三七(一九六二)より四年間、昭和四八年(一九七三)より五年間、平成四年(一九九二)より五年間体験した。

平成十年(一九九八)深町の人口は千人を突破した。平成十一年(一九九九)児童数八二名で、もう当分複式に戻ることはないだろう。

深の学校は百二十五年の歴史がある。緑に囲まれた静かな自然と、学校、家庭、地域社会がしっかりと連携した恵まれた教育環境のもとで、児童は伸び伸びとした教育を受けている。▲▲

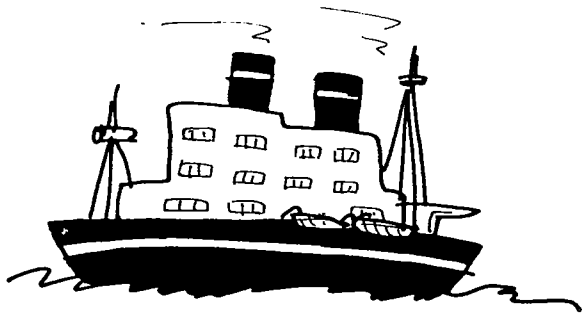
「近東伊太利航路」の思い出(1)

秋本 俊之

昭和医大の受験に失敗し、やむなく無線通信学校に入学し、卒業したのは昭和十四年でした。卒業後、東京の日本郵船に就職しました。

当時、会社には外国航路の船が約二〇〇隻あり、卒業後直ちに乗船を命じられたのが、近東伊太利航路の室蘭丸という七〇〇トクラスの、乗組員約六〇名の貨物に、次席通信士として乗船しました。

十月、ドックを済ませ横浜港のブイに繋留された室蘭丸は、船長の「スタンバイ」の号令に依り、ボーイ長のドラ(直径四十釐位の銅製の洗面器の様なものに、紐をつけたもの)を叩き乍ら、デッキ上を走り回ると同



時に、汽笛の長声一番と同時に船首をブイに係留したワイヤールが外され、メインエンジンが回転を始めます。

その時、ブリッジには船長、三等航海士、船首には一等航海士、船尾には二等航海士、エンジンルームには機関長以下機関科全員がそれぞれ配置につき、無線室には無線局長、次席通信士が配置につき、出港後約一時間で「スタンバイ」体制は解除となります。

この時は停泊中の様々な事が思い出され、別れの寂しさがこみ上

●春夏秋冬●

楳谷 マサヨ

三景の一つにありし宮島も
台風直撃にはなすすべもなし
結婚式二人の名前をよみこんで
祝いの歌を渡しおたりたり
久々にお寺参りに縁を持つ
近代美ある新館出来居り

市民体育大会

盛会裏に終わりました

十月十日行なわれた三原市民体育大会に、今年も全種目出場しました。応援者を含め、二五人の人が参加し一日を楽しく過ごしました。

出場地区の単位人口は、鷺浦町に続いて低いのですが、よく健闘し、一八チーム中総合順位(ビーチボール、グラウンドゴルフ、ゲートボールを含む)一五位でした。

敬老会は十月二十四日

秋の快晴に恵まれた二十四日、三原市民生部部長 新田様、小学校長 小林様等をお迎えして午前十時半から、深小学校屋内体育館で行ないました。

対象者一三八名中、参加いただいたのは三八名でした。

女性会中心で、踊り・民謡・童謡。加えて小学校児童が笛の演奏・パントマイムで場を盛り上げてくれました。来年の再会が楽しみです。

宿直専門員募集

深町町内会(仮組織)今年十二月一日オープン予定の「サンライズ大池」が宿直専門職員を募集しています。

- ・ 募集人員(深町在住者) 二名
- ・ 応募年齢 六十八歳まで
- ・ 勤務場所 サンライズ大池内
- ・ 勤務時間 午後五時～翌朝九時まで
- ・ 業務内容

- (1) 施設巡回 (午後七時～九時・十一時)
 - (2) 施設の施設と開錠 午後九時～翌朝六時
 - (3) 電話の取り次ぎ 勤務時間内
 - (4) 玄関廻りの清掃 午前八時頃
- ※ 午後十時の巡回機要朝六時まで仮眠可

・ 賃金 一日(泊) 五〇〇〇円(制服貸与) 一年間

・ 契約期間 一年間

応募希望者は、市販の履歴書に記入の上、十一月十五日までに各町内会会長のもと届けてください。後日面接の上決定。

角島無線局(JTS)長崎無線局(JOS)と航行し乍ら長崎港へ寄港し南下、シンガポールに向け航行を続けます。

長崎を出て一・二日は使用電波は中波で送受信を続けますが、それ以降は短波通信に切替え、東支那海、インド洋、地中海は長崎局の短波のエリアとなります。

今回の往航の寄港地は、シンガポール、コロムボボンベイ、アデン、スエズ、ポートサイド、ペイルート、アテネ、ナポリ、ゼノウア(最終港)で、一港で大体四・五日の停泊で荷物の揚げ下をし乍ら、復航を含めると約五ヶ月の予定です。

